

平成25年度

公立大学法人奈良県立医科大学の業務の実績に関する評価結果

平成26年8月

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会

目 次

全体評価	2
項目別評価	
I 地域貢献	
1 教育関連	4
2 研究関連	6
3 診療関連	7
II 教育	10
III 研究	12
IV 診療	14
V まちづくり	17
VI 法人運営	18

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会は、地方独立行政法人法第28条の規定により、公立大学法人奈良県立医科大学の業務実績について以下のとおり評価を行った。

【平成25年度評価】

「全体評価」

全体評価は、項目別評価及び法人の自己評価を踏まえつつ、法人の中期計画の進捗状況全体について、記述式により評価を行う。

「項目別評価」

業務実績報告書の検証を踏まえ、項目別に進捗状況・成果を下記の5段階で評定する。

- V 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進行状況にある
- IV 中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる
- III 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね順調に進んでいる
- II 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている
- I 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある

なお、各項目における評価指標についても、下記の3段階で評定する。

- ◎ 実績が指標を大幅に上回っていると認められるもの
- 実績がおおむね指標を達成していると認められるもの
- 実績が指標を下回っているもの

全体評価

公立大学法人奈良県立医科大学は、第2期中期目標期間（平成25年度から30年度まで）に入り、平成25年度は初年度の評価にあたる。

平成25年度からスタートした中期目標では、「地域貢献」、「教育」、「研究」、「診療」、「まちづくり」、「法人運営」の6つの大きな分野とそれぞれの項目について、数値目標を含め具体的な成果目標を掲げた。

法人では、新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画にあたり、医大の将来像（理念）の再構築を行うため、学内外から広く意見を求め、医大全体をあげて取り組んでいる。また、県立医大医師派遣センターをはじめ、各種センターや委員会の設置に積極的に取り組むとともに、中期計画の全ての項目について、定期的に進捗状況を把握し、進捗管理を行うなど、中期計画・年度計画について意欲的に取り組んでいる。

平成25年度評価

平成25年度の業務実績の中で、注目される取組として、以下の点などがあげられる。

- ・新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を推進するにあたり、その前提として、数十年後を視野に入れた医大の将来像（理念）の再構築を行うとしたこと。また、そのためには、学内外から広く意見等を求めることが重要であるとして、全職員を対象としたアンケート調査及び学内関係者、学外有識者へのインタビューを実施し、医大全体をあげて取り組んでいること
- ・県立医大医師派遣センターを平成26年4月に設置することを決定し、また平成25年10月に県費奨学生配置センターを設置し、県内の公立・公的病院等からの医師派遣要請に対応する体制を整えたこと
- ・漢方の教育・研究、人材育成、地域医療者への研修・普及を行うため、大和漢方医学薬学センターを平成26年1月に設置し、専任教員を採用しキックオフセミナーを平成26年3月に開催していること
- ・基幹型認知症疾患医療センターを平成25年11月に設置し、地域医療機関と連携した認知症高齢者の受け入れについて本格稼働していること
- ・医学科・看護学科卒業生の県内就職者数が年度計画を上まわっていること
- ・基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成するため、学内共同研究プロジェクト及び若手研究者を対象とした研究助成制度を平成25年5月、研究助教制度を平成26年2月に創設していること
- ・附属病院のさらなる充実に向け、（仮称）中央手術棟のⅠ期工事を平成25年10月に完了し、同11月からⅡ期工事に着手していること
- ・中期目標・中期計画を含む法人の取組について、新聞を活用して、理事長自らインタビュー形式により発信していることや、平成25年度の中期計画の進捗管理をするために、全67項目ごとに進捗状況整理カードを作成し、四半期ごとに実績等を取りまとめたうえ、理事長並びに項目責任者（各役員）を構成員とする執行役員会議において、進捗管理を行っていること

これら取組を含めて、公立大学法人奈良県立医科大学の平成25年度計画のすべての業務実績について、「公立大学法人奈良県立医科大学の各年度終了時の評価に係る実施要領」に基づき評価した結果、中期目標で掲げる8項目中全項目（Ⅰ-1 地域貢献 教育関連、Ⅰ-2 地域貢献 研究関連、Ⅰ-3 地域貢献 診療関連、Ⅱ教育、Ⅲ研究、Ⅳ診療、Ⅴまちづくり、Ⅵ法人運営）について、数値目標を含めて「順調に進んでいる」又は「おおむね順調にすすんでいる」と評定し、年度計画で定めた事業をおおむね実施していると判断した。

以上のことを踏まえ、公立大学法人奈良県立医科大学の平成25年度の業務実績については、中期目標・中期計画の達成に向けて、全体としては順調に進んでいると認められる。

なお、平成25年度、公立大学法人奈良県立医科大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関である独立行政法人大学評価・学位授与機構（※）による大学評価（認証評価）の結果、「大学評価基準を満たしている」との認定を受け、公立大学法人奈良県立医科大学の、大学としての教育研究活動が一定水準以上にあることが確認された。この評価機関による評価を、第2期中期目標期間の評価を行う際に踏まえることとなるが、委員会として、評価機関から受けた改善意見等に留意し、引き続き質の高い教育研究活動を推進されるよう、付言する。

（※）… 学校教育法第109条の規定により、文部科学大臣の認証を受け大学等の評価を行う機関

項目別評価

I. 地域貢献(教育関連)

1. 医療人の育成(医師関連)・医師派遣システムの適切な実行・医療人の育成(看護師関連)
2. 看護師の地域貢献

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)県立医大医師派遣センターを設立・運営する[I-1] ・医学科卒業生の県内卒後臨床研修病院への就職率60%を目指す[I-1] ・(仮称)県費奨学生配置センターを設置・運営する[I-1] ・公立・公的病院等からの要望に対応した最適な医師配置(配置数)40名を目指す[I-1] ・地域に貢献する医師の育成数延べ86名を目指す[I-1] ・看護学科卒業生の県内就職率60%を目指す[I-1] ・認定看護師や専門看護師の総数を平成24年度11月現在と比べ1.5倍を目指す[I-2] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する意識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)県立医大医師派遣センターの設置に向けて体制や運営方法を検討し、年度内の設置をめざす。」に対して、県立医大医師派遣センターを平成26年4月に設置することと体制を決定し、医師適正派遣調整会議で運営方法を検討中である。また県内卒後臨床研修就業者数が年度計画を上回っている。
- 中期計画「(仮称)県費奨学生配置センターを設置し、県等との連携のもと、医師派遣システムを構築することにより、地域に必要な医師配置の実現に積極的に寄与する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)県費奨学生配置センターの設置に向けて体制や運営方法を検討し、年度内の設置をめざす。」に対して、県費奨学生配置センターを平成25年10月に設置し、体制を決定し運営を開始している。
- 中期計画「(仮称)看護実践・キャリア支援センターを設置・運営する等、看護学生の就労支援を行い、県内就職率の向上に努める。」に係る、平成25年度計画「(仮称)看護実践・キャリア支援センター設置に向け、他府県の先行事例を調査するとともに、法人内に検討委員会を設置し、センターの概要を決定する。」に対して、先行事例の調査結果を参考に看護実践・キャリア支援センターを平成26年4月に設置することを決定している。また県内就業者数が年度計画を上回っている。
- 中期計画「認定看護師・専門看護師を増やすとともに、附属病院看護部と看護学科が協働・連携する体制を構築し、看護職員等の教育・研修プログラム及びキャリア支援を充実させることにより、地域の看護師のレベルアップを目指す。」に係る、平成25年度計画「スキルスラボの整備及び運営の準備を行うとともに、(仮称)看護実践・キャリア支援センターの設置について検討する。」に対して、スキルスラボの施設および備品を整備し、一部の利用を開始している。また、平成26年3月に看護実践・キャリア支援センターを平成26年4月から設置することと、担当者を決定している。

課題(●)

- 中期計画「教養教育等を通じ奈良への愛着、県内の地域医療に対する知識を涵養するとともに、(仮称)県立医大医師派遣センターを設置・運営し、県内への高い就職率を確保する。」に係る、平成25年度計画は「奈良のことを学ぶ教育講座の開設を検討し、学生の奈良への愛着と貢献意識の醸成を図る」としているが、講義の内容や実施回数についての検討にとどまっている。

【評価指標】

◎医学科卒業生の県内卒後臨床研修就職者数は、緊急医師確保修学資金の利用者の増加などから、年度指標を大幅に上回っている。

◎看護学科卒業生の県内就職者数は、医科大学附属病院以外の県内病院への就職者数の増加などから、年度指標を大幅に上回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
医学科卒業生の 県内卒後臨床 研修就職者数*	指標	51名	54名	57名	60名	63名	66名** (60%)
	実績	56名***					
	評定	◎					
* 緊急医師確保修学資金による増13名含む							
** 県内就職率約60%を確保するための必要数:66名							
*** 56名のうち44名が附属病院、12名が県内病院へ就職							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
県費奨学生の 医師配置数*	指標	8名	15名	17名	22名	29名	40名
	実績	8名					
	評定	○					
* 医師確保修学研修資金の義務履行者を主とする医師配置数(近畿大学医学部奈良病院含む)							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
緊急医師 確保枠を 主とする 医師育成数	指標	延べ26名	延べ39名	延べ52名	延べ65名	延べ78名	延べ86名
	実績	延べ26名					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
看護学科 卒業生の 県内就職者数	指標	33名	38名	45名	50名	52名	54名* (60%)
	実績	48名**					
	評定	◎					
* 県内就職率60%を確保するための必要数:54名							
** 69名が看護師として就職し、うち44名(附属病院33名、県内病院11名)が県内就職、8名が保健師として就職し、うち4名が県内に就職							

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
認定看護師・ 専門看護師数	指標	25名	27名	29名	31名	33名	35名**
	実績	26名*					
	評定	○					
* 26名のうち、認定看護師が21名、専門看護師が5名							
** 平成24年度11月現在の23名の1.5倍							

項目別評価

I. 地域貢献<研究関連>

3. 研究成果等の地域への還元 4. 健康増進の県民アプローチの充実

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する[I-3] ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する[I-3] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[I-3] ・県民の健康増進支援組織を設置・運営する[I-4] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「住居医学講座や(仮称)大和漢方医学薬学センター、スポーツ医学講座等を核として産学官連携による研究推進に取り組む。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置する。」に対して、大和漢方医学薬学センターを平成26年1月に設置し、専任教員を採用しキックオフセミナーを平成26年3月に開催している。
- 中期計画「市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。」に係る、平成25年度計画「県民の健康増進を支援するための体制づくりの検討を行う。」に対して、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援することを目的とした県民健康増進支援センターを平成26年3月に設置し、支援体制を決定している。
- 中期計画「市町村や県が実施している健康増進事業に協力するとともに、予防医学や健康づくりの適切な情報や研究成果を提供することにより地域住民のセルフケアを支援する。」に係る、平成25年度計画「健康増進に関する県民のニーズに応じた公開講座を開催する。」に対して、アンケートにより県民のニーズを把握し、平成25年9月に「認知症の人のために家族ができること」他2講座(受講約600名)、平成26年3月に「がんの病理診断と治療への関わり」他2講座(受講約560名)を開催している。
- 中期計画「MBT 構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、医大を中心としたまちづくり構想と連携・調整を図りながら、既に提案されている「MBT 構想」、「健康長寿コホート研究」等の方向性・実効性等について検討する。」に対して、「MBT 構想」について、早稲田大学との共同研究成果として医学と都市計画学による地域コミュニティの新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」を刊行している。

項目別評価

I. 地域貢献〈診療関連〉

5. 断らない救急医療体制の整備 6. 周産期医療体制の強化 7. 他の医療機関との連携強化
8. 県内医療人への助言・指導

<p>中期目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な救急患者の高度救命救急センターの受入率を100%に近づける[I -5] ・重篤な救急患者を断らないシステムを構築する[I -5] ・県内救急搬送のコーディネート機能を運用する[I -5] ・新生児・母体の県内受入率を100%に近づける[I -6] ・「脳卒中、心筋梗塞、糖尿病、がん、精神疾患」の地域医療連携パスの運用件数200件を目指す[I -7] ・認知症疾患医療センターを設置・運営する[I -7] ・紹介率75%、逆紹介率60%を目指す[I -7] ・医療関係者に対する研修会等の開催回数を平成23年度に比べ倍増を目指す[I -8]
<p>年度評価</p>	<p style="text-align: center;">IV</p> <p>中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる</p>

注目される取組(○)

- 中期計画「県内の救急医療に関する諸機関の連携体制のもと、重篤な救急患者の受入を中心に、病院全体として断らない救急医療の実現に取り組む。」に係る、平成25年度計画「高度救命救急医療を担う医師、看護師等の確保に努める。専門医や認定看護師の養成を図る。」に対して、高度救命救急医療を担う看護師を11名増員するとともに、平成25年5月からドクターカーに救命救急センター看護師の同乗を開始し、救命率の向上を図る救命医療の取組に寄与している。認定看護師3名、専門看護師1名を養成している。
- 中期計画「総合周産期母子医療センターの機能充実と施設間ネットワークとの連携を図ることにより母体・新生児搬送受入率100%を目指すとともに、周産期医療を担い推進する人材(新生児科医、産科医、小児科医、小児外科医、助産師、看護師等)を養成する。」に係る、平成25年度計画「周産期医療に関わる施設間ネットワークのもと、母体・新生児搬送コーディネートを行う産科医・新生児科医の確保・増員に努める。」に対して、法人において産科医・新生児科医を確保し、休日・夜間における母体搬送コーディネーター事業を平成26年4月から実施することを決定している。
- 中期計画「各種地域医療連携パス、退院調整の効果的な運用、地域医療連携連絡協議会の活性化、連携登録医制度の導入による逆紹介等の促進により、地域医療連携をより一層推進する。また、基幹型認知症疾患医療センター、中核的な緩和ケアセンターを設置・運営する。」に係る、平成25年度計画「地域医療機関と連携して認知症高齢者受け入れのための基幹型認知症疾患医療センターの設置に向けての検討・協議を行う。」に対して、25年8月に県から認知症疾患医療センター(基幹型)の指定を受け、11月から本格稼働している。
- 中期計画「県・市町村医師会や県看護協会と協働して、最新技術・情報を学べる研修やスキルスラボ実習を企画・実施するとともに、メーリングリスト等を活用した情報発信を行い、県内医療人のレベルアップに貢献する。」に係る、平成25年度計画「医学教育、看護教育、医師卒後臨床研修及び病院医療技術職員等の研修の場として、臨床技術習得のための実習が行えるスキルスラボの整備を行うとともに、運営の準備を行う。」に対して、スキルスラボの施設および備品の整備を完了し、平成25年12月から利用を開始している。

【評価指標】

- 平成25年4月より奈良県救急医療管制システムシステム（e-MATCH）を稼働し、またERプロジェクトの運用を開始しているが、重篤な救急患者の高度救命救急センターへの受入率が年度指標に達していないので、その原因を解明し、改善策を立案し、指標の達成を期待する。
- 地域医療連携パスの運用件数については、運用面の整備や、連携対象の医療機関の拡大を図っているが、年度指標に達していないので、達成を期待する。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
重篤な救急患者の高度救命救急センター受入率	指標	87%	89%	91%	93%	95%	100% に近づける
	実績	81.2%					
	評定	●					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
母体県内受入率	指標	93%	93%	93%	100% に近づける	100% に近づける	100% に近づける
	実績	92.6%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
新生児県内受入率	指標	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	実績	100%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
地域医療連携パスの運用件数	指標	140件	150件	165件	185件	200件	200件
	実績	127件					
	評定	●					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
紹介率	指標	75%	75%	75%	75%	75%	75%
	実績	75.4%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
逆紹介率	指標	43%	48%	53%	56%	58%	60%
	実績	43.9%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
研修会等の 開催回数	指標	3回	4回	4回	4回	4回	4回**
	実績	3回*					
	評定	○					
<p>* 地域医療連携懇話会及び地域医療連携連絡協議会を開催するとともに、その他各専門分野において地域医療に従事する職員が参加する研修会を開催している。</p> <p>** 平成23年度の2回の2倍</p>							

項目別評価

Ⅱ. 教育

1. リベラルアーツ教育の実践 ・医の心をもった医療人の育成 ・医療経営に関する教育の確保
2. 教育内容の評価 3. 老朽・狭隘施設への対策

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・リベラルアーツ教育に沿った新カリキュラムを導入する[Ⅱ-1] ・医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合を90%を目指す[Ⅱ-1] ・外部有識者を含む一般教育検討委員会を設置・運営する[Ⅱ-1] ・大学院に医科学専攻医療経営学科目を設置する[Ⅱ-1] ・カリキュラムと授業の進め方に「不満」「大いに不満」な学生の割合を平成22年度に比べ半減を目指す[Ⅱ-2] ・評価体制を構築し評価を実施する[Ⅱ-2] ・新キャンパスの平成33年中移転を目指す[Ⅱ-3] ・教育・研究部門等移転対策委員会を設置・運営する[Ⅱ-3] 	
年度評価	Ⅳ	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

○中期計画「カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。」に係る、平成25年度計画「外部委員の選定および委任を行い、一般教育検討委員会の構成員を決定のうえ、検討委員会を設置し、カリキュラム編成に向けた検討を行う。」に対して、外部委員2名および学内の11名の委員による一般教育検討委員会を設置し、同委員会においてカリキュラム編成に向けた検討を行い、医学科と看護学科の一般教育の統一、一般教育の期間を1年に短縮、一般教育に人文・社会系の専任教授を配置することを決定している。

○中期計画「カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。」「教員の教育力向上のためのFD(Faculty Development(※))活動の活性化および教員と学生の双方向性の授業評価システムを構築することにより、講義・実習・研修内容の充実を図る。」に係る、平成25年度計画「学生アンケート調査の方法・内容の検討及び学生の聞き取り調査を実施する。」に対して、学生アンケート調査の内容・方法を検討し、調査を実施した。医学科では634名の学生からアンケートを回収(回収率96%)、看護学科では312名の学生からアンケートを回収(回収率88%)し、調査結果を『奈良県立医科大学2013年度医学科白書』及び『奈良県立医科大学2013年度看護学科白書』としてまとめ、全学生・教職員に配付している。

(※)…FD(Faculty Development):教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称である。具体的な例としては、新任教員のための研修会の開催、教員相互の授業参観の実施、センター等の設置などを挙げることができる。(文部科学省ホームページより)

○中期計画「カリキュラムの見直し・再構築を行い、医療人にふさわしい教養や倫理観を培うリベラルアーツ教育、および国際感覚、実践的英語能力等の習得を目的とした幅広い教育を強化する。」に係る、平成25年度計画「大学院の運営委員会および課程委員会において医科学専攻医療経営学科目の設置に向けた検討を行う。」に対して、平成25年9月大学院医学研究科修士課程に『医療経営学』を設置し、経営意識を兼ね備えた医療人の育成を図っている。

○中期計画「新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。」に係る、平成25年度計画「基本構想を策定するにあたり、教育・研究部門移転整備責任者を選定し、医大独自で調査・検討を実施するとともに、医大内部の合意形成を図る。」に対して、基本構想の前段として、医大の目指すべき将来像(理念)を再構築するため、全教職員を対象としたアンケート調査及び学内関係者・学外有識者へのインタビューを実施し、広く意見等を求めている。さらに県と医大による「医大の将来像策定会議」において、知事・学長がそれぞれトップとして関わり、上記意見について議論している。また、医大の将来像策定WG、教育・研究・診療・まちづくりSWGを設置し、法人構成員の幅広い参画の下、着実に取り組んでいる。

【評価指標】

◎看護学科における、カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合が、年度指標を大幅に下回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
医師・看護師の理想像を理解し、医師・看護師になる強い自覚を持った学生の割合	指標	【医学科】 40%	55%	70%	80%	85%	90%
	実績	38%					
	評定	○					
	指標	【看護学科】 40%	55%	70%	80%	85%	90%
	実績	41%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
カリキュラムと授業の進め方に「不満」・「大いに不満」な学生の割合	指標	【医学科】 39%	36%	30%	26%	22%	20%
	実績	カリキュラム38% 授業31%*					
	評定	○					
	指標	【看護学科】 39%	36%	30%	26%	22%	20%
	実績	カリキュラム16% 授業14%**					
	評定	◎					

*【医学科】全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が38%、授業への不満が31%である。

**【看護学科】全学生へのアンケート調査の結果、カリキュラムへの不満が16%、授業への不満が14%である。

項目別評価

Ⅲ. 研究

1. 研究の適切な成果評価 2. 有能な研究者の獲得 3. 健康・予防医療等研究範囲の拡大
4. 研究環境の改善

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[Ⅲ-1] ・基礎医学系教員14名以上の育成を目指す[Ⅲ-2] ・PubMed(※)対象の英文学術論文数を中期目標期間中に延べ1,400件を目指す[Ⅲ-2] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する[Ⅲ-3] ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す[Ⅲ-4] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[Ⅲ-4] <p>(※)PubMed…アメリカ国立医学図書館内の国立生物科学情報センター(NCBI)が運営する医学・生物分野の学術論文検索サービス</p>	
年度評価	IV	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「研究に関する外部有識者を含む自己評価委員会を設置・運営するとともに、教室主任に研究目標の明確化を求め、達成状況を自己評価させ、極めて高い研究業績をあげた者に対する顕彰制度を新設する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、研究に関する第三者評価を行うための評価委員会を設置する。」に対して、研究推進戦略本部での検討を基に、研究評価委員会を平成26年3月に設置している。
- 中期計画「研究医養成コースの充実に加え、学内共同研究プロジェクトや若手研究者への支援制度の充実等により、基礎医学・社会医学・臨床医学の研究を推進する高度な知識・能力と意欲を持つ研究人材を育成し、大学全体の研究競争力を高める。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、研究助教制度の設置に向けた検討を行う。学内共同研究プロジェクトや若手研究者への独自の助成制度を新設・実施する。」に対して、研究推進戦略本部での検討を基に、研究助教制度を平成25年5月に制定した。新設した助成制度に基づき、
- ①特別共同研究助成事業を創設して学内公募を行い、2件を採択(1件:500万円)している。
- ②若手研究者研究助成事業を創設して学内公募を行い、4件を採択(1件:50万円)している。
- 中期計画「MBT 構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、医大を中心としたまちづくり構想と連携・調整を図りながら、既に提案されている「MBT 構想」、「健康長寿コホート研究」等の方向性・実効性等について検討する。」に対して、「MBT 構想」について、早稲田大学との共同研究成果として医学と都市計画学による地域コミュニティの新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」を刊行している。(再掲)
- 中期計画「新キャンパスへの教育・研究部門の移転計画を積極的に推進する。」に係る、平成25年度計画「基本構想を策定するにあたり、教育・研究部門移転整備責任者を選定し、医大独自で調査・検討を実施するとともに、医大内部の合意形成を図る。」に対して、基本構想の前段として、医大の目指すべき将来像(理念)を再構築するため、全教職員を対象としたアンケート調査及び学内関係者・学外有識者へのインタビューを実施し、広く意見等を求めている。さらに県と医大による「医大の将来像策定会議」において、知事・学長がそれぞれトップとして関わり、上記意見について議論している。また、医大の将来像策定 WG、教育・研究・診療・まちづくり SWG を設置し、法人構成員の幅広い参画の下、着実に取り組んでいる。(再掲)

【評価指標】

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
PubMed 対象 の英文学術 論文(累計)	指標	226 件	446 件	678 件	916 件	1,160 件	1,400 件
	実績	234 件					
	評定	○					

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
基礎医学系 教員育成数 (累計)	指標	4名	6名	8名	10名	12名	14名
	実績	5名*					
	評定	○					

* 研究医養成コース(2年次編入)入学者4名(平成24年:2名、平成25年:2名)及び学内学生1名

項目別評価

IV. 診療

1. 医師・看護師等の離職防止と人材確保 2. がん拠点病院としての機能の充実
3. 治療成績の一層の向上 4. 患者満足の一層の向上 5. 老朽・狭隘施設への対策

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・就業規則を見直す[IV-1] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する[IV-1] ・女性医師数35名を目指す(後期臨床研修医を除く)[IV-1] ・看護師の離職率を5%未満を目指す[IV-1] ・がん診療に特化した医師数を平成24年5月現在に比べ倍増を目指す[IV-2] ・がん治療の年間延べ患者数 35,000 名に対応する[IV-2] ・診療内容向上委員会を設置・運営する[IV-3] ・臨床指標(臨床インディケータ)を設定し、改善する[IV-3] ・臨床指標をホームページへ掲載し、毎年更新する[IV-3] ・入院・外来の診療内容に総合的に満足している患者の割合90%以上を維持する[IV-4] ・診察の待ち時間が長いと感じる患者の割合年1%ずつの減少を目指す[IV-4] ・ホスピタリティマインド向上委員会を設置・運営する[IV-4] ・(仮称)中央手術棟の平成27年度中のオープンを目指す[IV-5] ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する[IV-5] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[IV-5] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。」に係る、平成25年度計画、「仕事と生活が両立できる働きやすい職場環境の構築のためワークライフバランス検討委員会を設置する。」に対して、ワークライフバランス検討委員会を平成25年6月に設置し、職員の意識、希望等について、把握・分析している。
- 中期計画「都道府県がん診療連携拠点病院にふさわしい医療体制を構築するとともに、高度先進的な施設・機器を整備することにより、充実したがん治療を実施し、生存率の向上を目指す。」に係る、平成25年度計画は、以下の通りである。
- 「・がん診療に関する施設・機器を整備し充実を図る。
- ・放射線療法医師、化学療法医師等のがん専門医の育成・確保に努める。
 - ・がん専門医臨床研修事業等、がん医療に携わる人材の養成のための研修を実施する。
 - ・がん診療連携拠点病院間の役割分担と連携を推進し、がん診療提供環境の整備、充実を図る。
 - ・がん相談専門員研修を受講させるなど、相談員のがん相談スキルを向上させる。」
- これらの計画に対して、以下のことを実施している。
- ・(仮称)中央手術棟Ⅰ期工事完了に伴い、外来化学療法室の処置台を14台から26台に増設。
 - ・放射線治療装置(リニアック2台)の稼働開始。
 - ・腫瘍センター助教1名、放射線腫瘍医助教3名の採用。
 - ・がん診療連携拠点病院研修会の開催。
 - ・臨床腫瘍学セミナーの開催。
 - ・がん相談員基礎研修、相談員指導者研修などの積極的な受講。

- 中期計画「(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営するとともに、医大版臨床指標(Clinical Indicator)を定めて、診療の質と量に対する現状分析を行い、一層の治療成績の向上を図る。」に係る、平成25年度計画、「(仮称)診療内容向上委員会を設置・運営する。」「適正な臨床指標を設定し、運用を行い、公表する。」に対して、医療の質評価委員会を平成25年7月に設置し、臨床指標の設定及び公表について協議のうえ、ホームページに指標を公表している。
- 中期計画「医療人のホスピタリティマインドの醸成及び患者の意見、要望を反映させた病院運営を行い、患者満足の一層の向上を図る。」に係る、平成25年度計画「案内サインの整備や老朽箇所の改修を行う。また、案内員の配置等の充実を行い、案内業務の質の向上を図る。」に対して、清掃・警備・駐車場整理業務の統括委託や誘導案内員を配置することにより親切な案内を実施し、また、患者アメニティ向上のための工事も実施している。
- 中期計画「附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。」に係る、平成25年度計画「(仮称)中央手術棟のⅠ期工事を完了し、Ⅱ期工事に着手する。」に対して、10月末にⅠ期部分が完成し、11月初旬に放射線治療部門等が移転し、11月下旬からⅡ期工事に着手している。
- 中期計画「附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。」に係る、平成25年度計画「基本構想を策定するにあたり、附属病院整備責任者を選定し、医大独自で調査・検討を実施するとともに、医大内部の合意形成を図る。」に対して、全職員を対象としたアンケート調査など調査・検討、合意形成のためのプロセスの充実を図り、法人構成員の幅広い参画の下、着実に検討を進めている。

課題(●)

- 中期計画「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。」に係る、平成25年度計画は「子育て支援の拡充のため学内保育園の定員増を図る。」としていたが、施設規模や病児保育の導入について、整備計画の取りまとめに至らず、平成26年度も引き続き検討を要する。(平成26年度、早期に取りまとめ、改修予定。)

【評価指標】

- がん治療件数については年度指標を下回っているが、前年度の件数(28,337件)よりも増加している。また、平成25年度に(仮称)中央手術棟Ⅰ期工事が完成し、がん診療に関する施設、機器の整備を図るとともに、人材の育成についても積極的に行い、さらなる件数の増加に向けた取組を行っている。

項目		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
女性医師数*	指標	25名	27名	29名	31名	33名	35名
	実績	27名					
	評定	○					

* 女性の臨床系教員(中央部門含む)

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
看護師の 離職率	指標	7.0%	6.5%	6.0%	5.5%	5.0%	5.0%
	実績	7.1%					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
がん治療 件数*	指標	32,000 件	32,700 件	33,400 件	34,100 件	34,700 件	35,000 件
	実績	30,815 件					
	評定	●					

* 放射線治療、化学療法の計

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
診療内容に 満足している 患者の割合	指標	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上	90% 以上
	実績	90% 以上					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
診療の待ち 時間が長いと 感じる患者の 割合	指標	35%	34%	33%	32%	31%	30%
	実績	33.4%					
	評定	○					

項目別評価

V. まちづくり

1. 教育・研究部門の円滑な移転と新キャンパス整備
2. 地域に開かれたキャンパスづくり
3. 教育・研究部門等移転後の跡地活用
4. 移転を契機とした研究分野での地域貢献
5. 健康づくり・予防医療等への貢献

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・新キャンパスの平成33年中のオープンを目指す[V-1][V-2][V-3] ・教育・研究部門等移転対策検討委員会を設置・運営する[V-1][V-2][V-3] ・教育・研究部門移転後の病院の整備計画を策定する[V-3] ・(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置・運営する[V-4] ・住居医学講座、スポーツ医学講座などのエビデンスの確立と講習会等を実施する[V-4] ・外部有識者を含む評価委員会を設置・運営する[V-4] ・リビングサイエンスの推進に向けた具体的な研究を実施し、県内へ普及する[V-5] 	
年度評価	IV	中期目標・中期計画にむけて順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「平成33年中の新キャンパスオープンを目指し、教育・研究機能の充実と地域に貢献できる新たな機能を備えた整備計画を進める。」「新キャンパスの構想計画においては、交流広場や緑地等の地域との交流を図る施設、図書館・食堂・コンビニ・グラウンド等を設置し、県民への開放に努める。」に係る、平成25年度計画「基本構想を策定するにあたり、教育・研究部門移転整備責任者を選定し、医大独自で調査・検討を実施するとともに、医大内部の合意形成を図る。」に対して、基本構想の前段として、医大の目指すべき将来像(理念)を再構築するため、全教職員を対象としたアンケート調査及び学内関係者・学外有識者へのインタビューを実施し、広く意見等を求めている。さらに県と医大による「医大の将来像策定会議」において、知事・学長がそれぞれトップとして関わり、上記意見について議論している。また、医大の将来像策定WG、教育・研究・診療・まちづくりSWGを設置し、法人構成員の幅広い参画の下、着実に取り組んでいる。(再掲)
- 中期計画「附属病院のさらなる充実を目指し、(仮称)中央手術棟の工程通りの完成と円滑な運営を推進するとともに、新外来棟への早期改築を立案し、早期着工への道筋を示す。また、老朽かつ狭隘な診療関連施設(臨床医学研究棟・臨床研修センター等)の早期改築を行う。」に係る、平成25年度計画「基本構想を策定するにあたり、附属病院整備責任者を選定し、医大独自で調査・検討を実施するとともに、医大内部の合意形成を図る。」に対して、全職員を対象としたアンケート調査など調査・検討、合意形成のためのプロセスの充実を図り、法人構成員の幅広い参画の下、着実に検討を進めている。(再掲)
- 中期計画「新キャンパスにおいては、(仮称)大和漢方医学薬学センターの設置等、一定規模の産学官連携ゾーンを整備し、県や市と連携しながら、医農商工連携の一層の推進に寄与する。また、他大学との共同大学院構想を策定し、研究部門の強化を図る。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、(仮称)大和漢方医学薬学センターを設置する。」に対して、研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、大和漢方医学薬学センターを平成26年1月に設置し、専任教員を採用しキックオフセミナーを平成26年3月に開催している。(再掲)
- 中期計画「MBT 構想や奈良県健康長寿コホートスタディ等について計画・推進し、住民の健康増進に貢献するリビングサイエンスを推進する。」に係る、平成25年度計画「(仮称)研究推進戦略本部での検討結果を踏まえ、医大を中心としたまちづくり構想と連携・調整を図りながら、既に提案されている「MBT 構想」、「健康長寿コホート研究」等の方向性・実効性等について検討する。」に対して、「MBT 構想」について、早稲田大学との共同研究成果として医学と都市計画学による地域コミュニティの新しいビジョンを示した「医学を基礎とするまちづくり」を刊行している。(再掲)

項目別評価

VI. 法人運営

1. ガバナンス体制の充実強化 2. ワークライフバランスの充実強化
3. 同窓会・歴代卒業生との連携 4. 繰越欠損金の解消

中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・評価委員会の全体評価で好成績をあげる[VI-1] ・就業規則を見直す[VI-2] ・ワークライフバランス検討委員会を設置・運営する[VI-2] ・年次有給休暇取得日数を平成22年に比べ倍増を目指す[VI-2] ・寄附件数 1,000 件を目指す[VI-3] ・繰越欠損金の解消を目指す[VI-4] 	
年度評価	Ⅲ	中期目標・中期計画にむけておおむね順調に進んでいる

注目される取組(○)

- 中期計画「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」に係る、平成25年度計画「中期目標・中期計画を全教職員に周知するためのツール及び行動規範を作成し、アンケートの実施、説明会の開催や研修会等の機会を捉え周知を図る。」に対して、中期目標及び中期計画を掲載したハンドブックを県とともに作成し、全教職員に配付している。また、教授会等各種会議や説明会等で、中期目標や中期計画の周知を図っている。
- 中期計画「中期目標・中期計画を始めとし、法人の運営方針や規範等の情報について全教職員が共有し、一丸となって業務に取り組む。また、広報体制を充実し、様々な広報媒体を活用して、法人の取り組みを積極的に発信する。」に係る、平成25年度計画「中期目標・中期計画、その他法人の取り組みを県民にわかりやすく発信（ホームページ、県政だよりなどの活用）するとともに、中期目標・中期計画の進捗状況を中長期計画推進委員会でチェックを行い着実に実施する。」に対して、中期目標・中期計画を含む法人の取組について、新聞を活用して理事長自らインタビュー形式により発信している。また、平成25年度計画の進捗管理をするために、全67項目ごとに進捗状況整理カードを作成し、四半期ごとに実績等を取りまとめたうえ、理事長並びに項目責任者(各役員)を構成員とする執行役員会議を開いて、進捗管理を行っている。
- 中期計画「県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。」に係る、平成25年度計画、「法人全体の財務分析・長期収支見直し、附属病院の診療科別収支及びDPC別ベンチマーク等の分析により、経営上の課題を抽出し、改善方策の検討・策定を行う。」に対して、診療科別経営分析、SWOT分析等を各診療科等及び経営改善取組項目を各診療科に提示し、改善を促している。また、ジェネリック医薬品への積極的な切り替え、院外処方への検討など今後の経営改善策の検討を行うとともに、病床稼働率、医薬・診療材料比率の目標値設定などを踏まえた平成26年度予算の検討も行っている。

課題(●)

- 中期計画「医師・看護師等の適正な増員と配置及び短時間正規労働制度の導入等によるワークライフバランスの改善を図るとともに学内保育園の充実と利用の促進により、女性医師・看護師等の就職促進と離職防止を図る。」に係る、平成25年度計画は「子育て支援の拡充のため学内保育園の定員増を図る。」としていたが、施設規模や病児保育の導入について、整備計画の取りまとめに至らず、平成26年度も引き続き検討を要する。(平成26年度、早期に取りまとめ、改修予定。)(再掲)

- 中期計画「県からの運営費交付金を確保しつつ、効率的・効果的な大学・病院経営を行い、第2期中期目標期間において繰越欠損金の解消に努める。」に係る、平成25年度計画は「経営上適正な投資と人件費比率を検討・設定するとともに、資金投入と人員配置による経費増と収入増を踏まえた中長期的な計画を策定し、検証を行う。」としていたが、経営上適正な人件費率や投資規模の設定には至っていない。

【評価指標】

- ワークライフバランスの推進に向けた取組を行っているものの、1人あたりの年次有給休暇取得日数については、年度指標を下回っている。
- 繰越欠損金の額については、退職給付金債務計算方法の変更による臨時損失が発生したことなどから、年度指標を下回っている。

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
評価委員会の評価	指標	常に評価結果を高い水準で維持					
	実績	項目別評価 Ⅳ:7 Ⅲ:1					
	評定	○					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
1人あたりの年次有給休暇取得日数	指標	【医師】 3.5日	4日	4.5日	5日	5.5日	6日
	実績	2.8日					
	評定	●					
	指標	【看護師】 4.5日	5日	5.5日	6日	7日	8日
	実績	3.6日					
	評定	●					

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
寄附件数	指標	900件	920件	940件	960件	980件	1,000件
	実績	817件*					
	評定	○					

* 平成25年度:562,304千円

項目	年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度(目標)
繰越欠損金の額	指標	6.0億円	4.8億円	3.6億円	2.4億円	1.2億円	0円
	実績	10.8億円*					
	評定	●					

* 退職給付債務計算方法変更による臨時損失 431,955千円含む

奈良県公立大学法人奈良県立医科大学評価委員会 委員名簿

氏名	役職等
今中 雄一	国立大学法人京都大学大学院医学研究科 医療経済学分野 教授
狭間 香代子	関西大学人間健康学部 学部長
堀 正二	地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪府立成人病センター 名誉総長
矢島 洋子	三菱UFJリサーチ&コンサルティング 株式会社 主任研究員
◎安田 國雄	国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学 名誉教授

(五十音順 敬称略 ◎は委員長)